OLYMPUS

2019年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見通し

2019年2月8日
オリンパス株式会社
取締役副社長執行役員 CFO
竹内 康雄

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

No data copy / No data transfer permitted

ハイライト

第3四半期累計実績

■ 連結

- 売上： 主力の医療事業が牽引し、2%増収
- 利益： 証券訴訟の和解金、米国司法省との司法取引契約締結に伴う費用等計上により、減益も、過去からの経営課題の解決に目処

通期業績見通し

■ 映像事業は、業績動向を考慮し、営業利益見通しを修正するも、連結売上高および各段階利益は、前回見通しから変更無し

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 今回の決算における主なポイント

- 第３四半期累計の連結実績
- 主力の医療事業が過去最高の売上高を更新し、前年同期比で2%の増収
- 各段階利益は、前回までの決算説明会でお伝えしました通り、多額の一時費用を計上したことで、減益
- 過去からの経営課題の解決に目処がついたと認識

- 通期業績見通し
- 映像事業は業績動向を考慮し、営業損益を下方修正したものの、全社としては連結売上高および各段階利益は前回見通しから変更なし

2019年3月期 第3四半期
連結業績および事業概況

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

2019年3月期　第3四半期実績　①連結業績概況

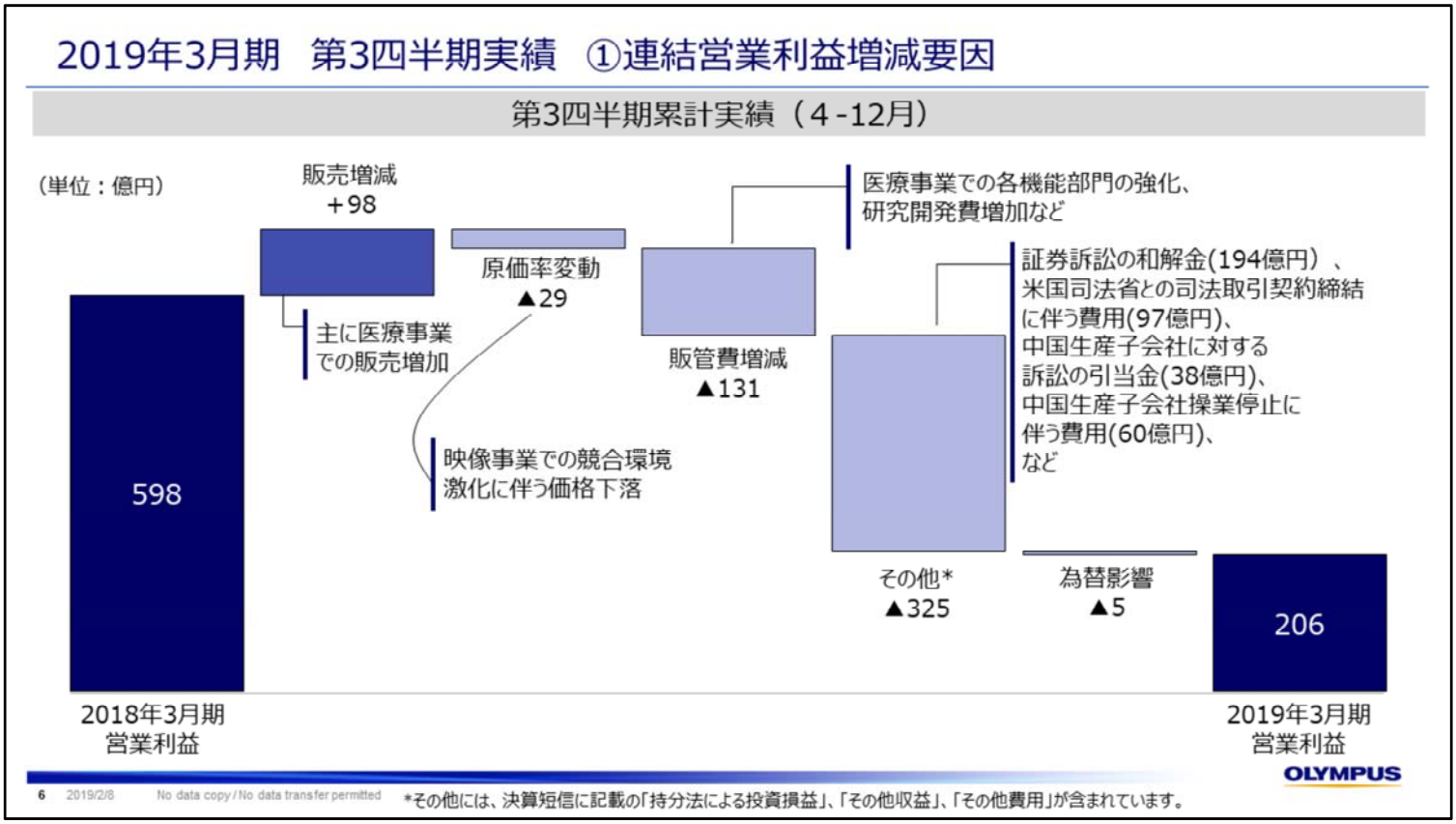
❶ 売上高は医療事業、科学事業の成長により、前年同期比2%の増収
❷ 一時費用の計上等により、減益

（単位：億円）	3Q累計実績（4-12月） 2018年3月期	2019年3月期	前年同期比	為替影響調整後	3Q実績（10-12月） 2018年3月期	2019年3月期	前年同期比	為替影響調整後
売上高	5,721	❶ 5,810	+2%	+2%	2,026	1,992	▲2%	0%
売上総利益（売上総利益率）	3,729 (65.2%)	3,784 (65.1%)	+1%	+2%	1,312 (64.7%)	1,296 (65.0%)	▲1%	0%
販売費および一般管理費（販売費および一般管理費率）	3,102 (54.2%)	3,225 (55.5%)	+4%	+4%	1,067 (52.7%)	1,102 (55.3%)	+3%	+4%
その他の収益および費用等	▲29	❷ ▲353	-	-	▲20	▲18	-	-
営業利益（営業利益率）	598 (10.5%)	206 (3.5%)	▲66%	▲65%	224 (11.1%)	176 (8.8%)	▲21%	▲18%
税引前利益（税引前利益率）	557 (9.7%)	136 (2.3%)	▲76%		205 (10.1%)	164 (8.2%)	▲20%	
親会社の所有者に帰属する当期利益（親会社の所有者に帰属する当期利益率）	480 (8.4%)	65 (1.1%)	▲86%		182 (9.0%)	120 (6.0%)	▲34%	
円／USドル	112円	111円			113円	113円		
円／Euro	129円	129円			133円	129円		

5　2019/2/8　No data copy / No data transfer permitted　OLYMPUS

- 連結の業績概況

- 第３四半期累計の連結売上高は医療事業、科学事業の成長により、前年同期比で2%増収の5,810億円
- 営業利益は、一時費用の計上等により、206億円
- 税引前利益は、為替差損の計上に伴う金融収支の悪化等により、136億円
- 当期利益は、65億円



- 第３四半期累計の営業利益の主な増減要因

- 販売増減：医療事業および科学事業の販売増により98億円、営業利益全体のプラスに寄与

- 原価率変動：主に映像事業で競合環境の激化に伴う販売単価の下落により悪化し、29億円のマイナス要因

- 販管費増減：131億円マイナスに影響
- 主に医療事業において、各機能部門の強化等に伴い、人員が増加したこと、および研究開発費が増加したことによるもの

- その他は：上期までに発生した一時費用を中心に325億円のマイナス要因
- この3Qに追加で発生した主な費用はなし

- 為替影響を加えた結果、営業利益は206億円

2019年3月期　第3四半期実績　②セグメント別概況

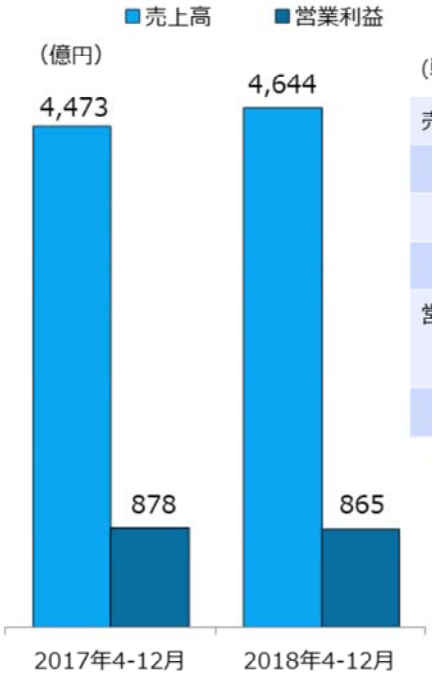
❶ 医療：第３四半期累計として過去最高の売上高。営業利益は一時費用計上により、前年並み
❷ 科学：生物顕微鏡、産業分野ともにプラス成長となり、増収増益を達成
❸ 映像：中国生産子会社操業停止に伴う費用計上等により、営業損失を計上

（単位：億円）		3Q累計実績（4-12月）				3Q実績（10-12月）			
		2018年3月期	2019年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2018年3月期	2019年3月期	前年同期比	為替影響調整後
医療	売上高	4,473	4,644	+4%	+4%	1,580	1,588	0%	+2%
	営業利益	878	865	▲1%	▲1%	324	318	▲2%	0%
科学	売上高	700	732	+5%	+5%	254	259	+2%	+4%
	営業利益	35	50	+41%	+40%	23	22	▲5%	▲5%
映像	売上高	473	383	▲19%	▲19%	167	127	▲24%	▲23%
	営業利益	15	▲131	▲146億円	▲146億円	▲1	▲39	▲38億円	▲36億円
その他	売上高	75	50	▲33%	▲33%	25	18	▲28%	▲28%
	営業利益	▲28	▲22	+6億円	+6億円	▲16	▲8	+8億円	+8億円
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	▲302	▲556	▲254億円	▲255億円	▲105	▲117	▲12億円	▲12億円
連結合計	売上高	5,721	5,810	+2%	+2%	2,026	1,992	▲2%	0%
	営業利益	598	206	▲66%	▲65%	224	176	▲21%	▲18%

7　2019/2/8　No data copy / No data transfer permitted　OLYMPUS

- セグメント別の概況
- 医療事業は第３四半期累計として過去最高の売上高を更新し、引き続き全社業績を牽引
- 営業利益は、米国司法省との司法取引契約締結に伴う費用により、前年並みの水準
- 科学事業は生物顕微鏡、産業分野ともにプラス成長となり、増収増益を達成
- 映像事業は減収となり、中国生産子会社の操業停止に伴う費用計上等によって、営業損失を計上
- その他事業は、コンパクトカメラ向けのレンズユニットの外販を終了したことなどで減収となり、営業損益は、前年同期に子会社の事業譲渡を行い、非事業ドメインを整理したこと等により、損失幅が縮小
- 全社・消去には、証券訴訟の和解金および、中国生産子会社に対する訴訟の引当金が含まれる

2019年3月期　第3四半期実績　③医療事業



(単位：億円)	第3四半期累計実績（4-12月） FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後	第3四半期実績（10-12月） FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後
売上高	4,473	4,644	+4%	+5%*	1,580	1,588	0%	+3%*
内視鏡	2,421	2,478	+2%	+3%	856	838	▲2%	0%
外科	1,455	1,549	+6%	+7%	514	541	+5%	+7%
処置具	596	618	+4%	+6%*	209	209	0%	+6%*
営業利益	878	865	▲1%	▲1%	324	318	▲2%	0%
その他の損益*2	▲22	▲69	-	-	▲7	0	-	-
営業利益率	*19.6%*	*18.6%*		*18.7%*	*20.5%*	*20.1%*		*20.0%*

*会計上の取り扱い変更に伴う影響を除いた成長率　　*2決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

売上高
- ✓ 内視鏡、外科、処置具の全分野で増収となり、第３四半期累計で過去最高の売上高を更新

営業利益
- ✓ 米国司法省との司法取引契約締結に伴う費用を計上したことにより、営業利益は前年並みの水準
- ✓ 「その他の損益」を除くと、前年同期比4%増益

8　2019/2/8　No data copy / No data transfer permitted　OLYMPUS

- 医療事業
- 内視鏡、外科、処置具の全分野で増収となり、売上高は、前年同期比4%増の4,644億円
- 処置具分野では、会計上の取り扱いを変更したことで、当期の売上高が影響を受けており、為替影響調整後の成長率はその影響を除いた数値を記載
- 利益には影響なし
- 営業利益は、前年同期比1%減の865億円、営業利益率は前年同期比1ポイント減の18.6%
- 一時費用の計上により、減益だが、「その他の損益」を除いた実質ベースでは、4%の増益となり、増収増益を確保

2019年3月期　第3四半期実績　③医療事業

分野	地域	現地通貨別成長率 2019年3月期 1Q	2Q	3Q	3Q累計	分野別の状況
消化器内視鏡	日本	▲3%	▲10%	0%	▲5%	• 日本：公的/公立病院を中心に予算獲得の厳しい状態は続いている一方、前期導入した新スコープの売上は堅調 • 北米：上期好調に推移した反動があるものの、セールスプロモーションを含めた販売は堅調に推移し、3Q累計で+2% • 欧州：保守を含めた販売施策を継続し、プラス成長を確保 • アジア・オセアニア：中国が成長を牽引
	北米	+4%	+7%	▲4%	+2%	
	欧州	+3%	+6%	+2%	+3%	
	豪亜	+8%	+14%	+4%	+9%	
	全地域	+4%	+5%	0%	+3%	
外科	日本	+11%	0%	+10%	+7%	• 日欧：主力システム「VISERA ELITE Ⅱ」、エネルギーデバイスともに好調に推移 • 北米: IMS社とのシナジーにより、4K外科内視鏡とシステムインテグレーションの販売が好調
	北米	+7%	+9%	+6%	+7%	
	欧州	+9%	+4%	+8%	+7%	
	豪亜	+13%	▲3%	+9%	+5%	
	全地域	+10%	+5%	+7%	+7%	
処置具	日本*	+1%	0%	+2%	+1%	• 全地域でプラス成長を継続 • 特に北米と中国を中心としたアジア・オセアニアが好調
	北米	+10%	+11%	+9%	+10%	
	欧州	+4%	+6%	+6%	+5%	
	豪亜	+9%	+6%	+15%	+10%	
	全地域*	+5%	+5%	+6%	+6%	

9　2019/2/8　No data copy / No data transfer permitted　　OLYMPUS

*1Q～3Q累計の数値（日本と全地域）は、会計上の取り扱い変更に伴う影響を除いた成長率

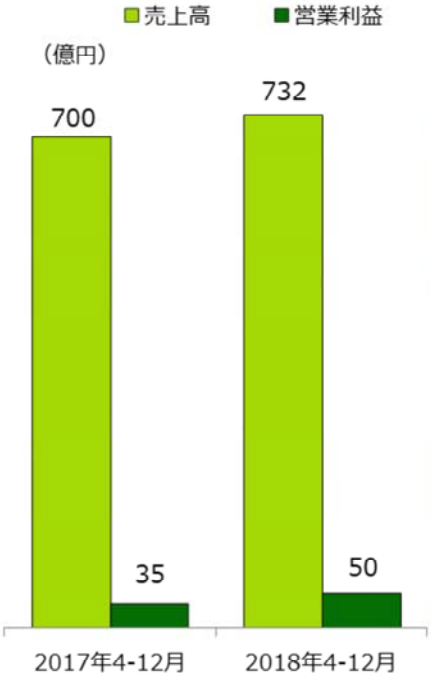
- 為替を除く実質ベースでの分野別、地域ごとの状況

- 消化器内視鏡分野：
- 日本は公的/公立病院を中心に予算獲得の厳しい状態が続いており、3Q累計ではマイナス成長
- 一方で足元3Qは、前期導入した新スコープの売上が堅調に推移していることもあり、前年並みの水準を確保
- 北米では、セールスプロモーションを含めた販売は堅調に推移し、3Q累計では2%成長
- 3Qはマイナス4%成長だが、これは製品ライフサイクル後半の中で、上期、好調に推移した反動によるもの
- 引き続きセールスプロモーションを強化することで、通期計画達成に向けて取り組む
- 欧州は、保守サービスを含めた販売施策を継続し、堅調に推移
- アジア・オセアニアでは中国が成長を牽引し、9%成長

- 外科分野：
- 日本と欧州において、新製品「ビセラ・エリート・ツー」および、エネルギーデバイスのサンダービートが好調に推移
- 北米は、ISM社とのシナジーにより、4K外科内視鏡とシステムインテグレーション製品の販売が好調

- 処置具分野：
- 全地域プラス成長を確保しており、成長トレンドは継続
- 特に北米と中国を中心としたアジア・オセアニアは好調に推移しており、二桁成長

2019年3月期　第3四半期実績　④科学事業



(単位：億円)	第3四半期累計実績（4-12月） FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後	第3四半期実績（10-12月） FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後
売上高	700	732	+5%	+5%	254	259	+2%	+4%
営業利益	35	50	+41%	+40%	23	22	▲5%	▲5%
その他の損益*	▲4	▲2	-	-	▲2	0	-	-
営業利益率	5.0%	6.8%		6.7%	8.9%	8.3%		8.2%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

売上高

- ✓ 生物顕微鏡：北米、中国を中心に売上が堅調に推移
- ✓ 産業製品　：産業分野の市況が好調、特に電子部品、半導体向けの工業用顕微鏡、航空市場向けの非破壊検査装置等の販売が増加

営業損益

- ✓ 増収および販管費をコントロールしたことにより、大幅増益

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

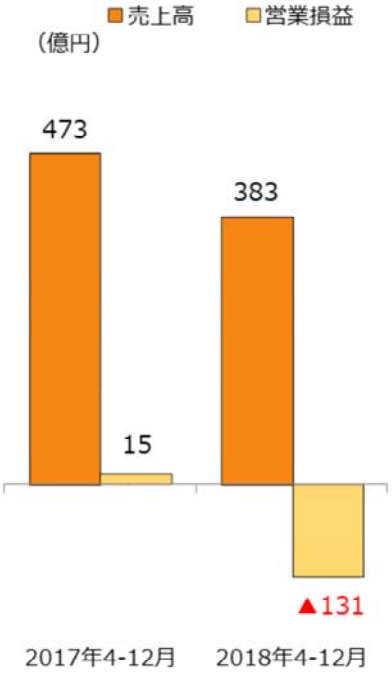
- 科学事業

- 売上高：前年同期比5%増収の732億円
- 営業利益：前年同期比41%増益の50億円

- 生物顕微鏡は、北米、中国を中心に堅調に推移
- 産業製品は好調な市場環境を背景に、特に電子部品、半導体向けの工業用顕微鏡、航空市場向けの非破壊検査装置等の販売が増加

- 営業利益は、増収効果に加え販管費をコントロールしたことにより大幅な増益

2019年3月期　第3四半期実績　⑤映像事業



(単位：億円)	第3四半期累計実績（4-12月） FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後	第3四半期実績（10-12月） FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後
売上高	473	383	▲19%	▲19%	167	127	▲24%	▲23%
ミラーレス	366	282	▲23%	▲23%	133	94	▲29%	▲28%
コンパクト	69	59	▲15%	▲15%	22	19	▲16%	▲14%
その他	38	43	+12%	+13%	12	14	+13%	+15%
営業損益	15	▲131	▲146億円	▲146億円	▲1	▲39	▲38億円	▲36億円
その他の損益*	▲1	▲68	-	-	0	▲15	-	-
営業利益率	3.2%	-		-	-	-		-

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

売上高

✓ 競合環境の激化および、生産拠点の再編に伴い、一部製品の供給に制約が生じた影響もあり、減収

営業損益

✓ 減収および生産構造改革費用を主な要因として、営業損失を計上
- ✓ その他の費用に含まれる金額（経済補償金等）：53億円
- ✓ 間接影響（売上減少等に伴う影響）：33億円

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

- 映像事業です。

- 売上高：前年同期比19%減の383億円、営業損益は、131億円の損失
- ミラーレス一眼は、競合環境の激化および、生産拠点の再編に伴い、一部製品の供給に制約が生じた影響もあり、前年同期比23%の減収

- 営業損益：減収および中国生産子会社操業停止に伴う費用の増加が主な要因となり、131億円の損失を計上
- 中国生産子会社操業停止に伴う影響額は、通期で約100億円を見込む
- 3Qまでに発生した金額は、その他の損益に含まれる直接影響は53億円、売上減少等の間接影響は33億円、合計で86億円
- 詳細および全社実績への影響につきましては、Appendixの22ページに掲載

- 来期は、新製品「OM-D E-M1X」による売上増加、ベトナム生産子会社への生産移管の効果を見込んでおり、損益の改善を図っていく

財政状態計算書

■ 有利子負債を365億円圧縮し、自己資本比率は47.4%

（単位：億円）	2018年3月末	2018年12月末	増減額
流動資産	5,143	4,585	▲558
棚卸資産	1,393	1,549	+156
非流動資産	4,644	4,641	▲2
有形固定資産	1,682	1,725	+42
無形資産・その他	1,989	1,908	▲81
のれん	972	1,009	+37
資産 合計	9,787	9,226	▲561

	2018年3月末	2018年12月末	増減額
流動負債	3,059	2,894	▲165
社債及び借入金	888	887	▲1
非流動負債	2,285	1,945	▲340
社債及び借入金	1,592	1,227	▲364
資本	4,443	4,387	▲56
自己資本比率	*45.2%*	*47.4%*	*+2.2pt*
負債及び資本 合計	9,787	9,226	▲561

有利子負債：2,115億円（2018年3月末比▲365億円）

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 財政状態

- 借入金等の返済により総資産を圧縮した結果、自己資本比率は前期末比で2.2ポイント上昇し、47.4%

- 資産の状況は、棚卸資産が156億円増加したが、これは主に年度末の出荷に向けた在庫の影響によるもの

連結キャッシュフロー計算書

■ FCF：証券訴訟の和解金192億円、米国司法省との司法取引契約締結に伴う費用97億円の支出により、フリーキャッシュフローは73億円のマイナス

第3四半期累計実績

（単位：億円）	2018年3月期	2019年3月期	増減
売上高	5,721	5,810	+90
営業利益	598	206	▲392
営業利益率	*10.5%*	*3.5%*	-
営業キャッシュフロー	602	366	▲236
投資キャッシュフロー	▲422	▲438	▲17
フリーキャッシュフロー	181	▲73	▲253
財務キャッシュフロー	▲362	▲516	▲154
現金及び現金同等物期末残高	1,867	1,318	▲549
減価償却費	393	430	+37
設備投資額	457	453	▲4

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

- キャッシュフローの状況
- 営業キャッシュフロー：証券訴訟の和解金および米国司法省との司法取引契約締結に伴う支払いもあり、366億円
- 投資キャッシュフロー：医療事業のデモ・ローナー品等の有形固定資産取得による支出等により、438億円のマイナス
- その結果、フリーキャッシュフローは73億円のマイナス

2019年3月期 通期業績見通し

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

通期見通し　①連結業績

■ 売上高および各段階利益は前回見通しを据え置き

（単位：億円）	2019年3月期 11月6日公表見通し	**2019年3月期 （最新見通し）**	増減	前回見通し比	2018年3月期
売上高	7,900	7,900	0	0%	7,865
売上総利益 （売上総利益率）	5,220 (66.1%)	5,190 (65.7%)	▲30	▲1%	5,105 (64.9%)
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	4,380 (55.4%)	4,380 (55.4%)	0	0%	4,266 (54.2%)
その他の収益および費用等	▲400	▲370	+30	-	▲29
営業利益 （営業利益率）	440 (5.6%)	440 (5.6%)	0	0%	810 (10.3%)
税引前利益 （税引前利益率）	390 (4.9%)	390 (4.9%)	0	0%	767 (9.7%)
親会社の所有者に帰属する当期利益 （親会社の所有者に帰属する当期利益率）	260 (3.3%)	260 (3.3%)	0	0%	571 (7.3%)
EPS	76円	76円			
円／USドル	108円	110円	＋2円(円安)		
円／Euro	130円	128円	▲2円(円高)		

2019年3月期配当

年間配当30円を予定
（変更なし）

15 2019/2/8 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 通期見通し
- 売上高、各段階利益のいずれも11月に公表した数値を据え置き
- 為替レートは、第3四半期までの実績と直近の為替動向を反映し、通期で1ドル110円、1ユーロ128円を想定
- 配当は、期末配当として1株当たり30円を予定

通期見通し　②セグメント別業績

■ 映像事業　：3Qまでの業績動向の反映および固定資産の減損計上により、営業利益を修正

（単位：億円）		2019年3月期 11月6日公表見通し	2019年3月期 最新見通し	増減額	前回見通し比
医療	売上高	6,340	6,340	-	-
	営業利益	1,270	1,270	-	-
科学	売上高	1,000	1,000	-	-
	営業利益	70	70	-	-
映像	売上高	500	500	-	-
	営業利益	▲130	▲160	▲30	▲30
その他	売上高	60	60	-	-
	営業利益	▲60	▲50	+10	+10
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	▲710	▲690	+20	+20
合計	売上高	7,900	7,900	-	-
	営業利益	440	440	-	-

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

- セグメント別の業績見通し
- 医療事業と科学事業の売上高、営業利益は11月に公表した数字から変更なし
- 映像事業は、競合環境等を踏まえた業績動向を反映したこと、および固定資産の減損を計上したことから、営業利益を30億円下方修正

トピックス

No data copy / No data transfer permitted

企業変革プラン「Transform Olympus」

グローバル・グループ一体経営体制へ転換	■ グローバル経営体制と5名の経営執行責任者によるリーダーシップの強化 **→迅速な意思決定、リスクの一元化**
グローバル人事制度への転換	■ 全社の人材マネジメントシステムを刷新 **→グローバル・グループ統一で適所適材配置を実現**
"Transform Medical" 医療事業の再編成	■ 「内視鏡事業」「治療機器事業」の2事業部門体制に再編し、「治療機器事業」部門は、米国内にグローバル事業統括拠点を配置 **→迅速で無駄のない事業運営、効率的かつタイムリーな製品導入による成長ポテンシャルの最大化**
コスト削減及び資本効率改善への取り組み	■ 2020年3月期の販売管理費を2018年3月期の水準まで圧縮 ■ 設備投資、運転資本を見直し、戦略的事業投資と株主還元に向けたフリー・キャッシュ・フローを増加 **→グローバル医療機器市場における同業他社と同水準まで大幅に改善し、株主価値を最大化**
取締役会のダイバーシティ化を伴う指名委員会等設置会社への移行	■ ビジネスのグローバル展開に即した「指名委員会等設置会社」へ移行 ■ グローバルな知見、経験を有する3名の新しい取締役候補者の選任を検討 **→経営の監督機能およびガバナンスの強化と企業価値の一層の向上**

真のグローバルなメドテックカンパニーとして持続的な成長を実現

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 1月11日に企業変革プラン「Transform Olympus」について発表
- スライドに示した５つの取り組みを通じて、当社のガバナンス、リーダーシップおよび人事制度を再構築し、グローバル企業としての当社の経営の機動性及び効率性を向上するための基盤を整備
- この新たな経営基盤の下で、米国治療機器部門の強化を加速し、当社の主要市場において一層の成長を実現するとともに、相応のコスト削減に取り組む

新たな取締役候補者

D. Robert Hale

Value Act Capital Management L.P.
パートナー

■ グローバル企業の変革を助言した経験、グローバルな資本市場やヘルスケア業界における知見を提供

Stefan Kaufmann

オリンパス株式会社執行役員兼
Olympus Europa SE & Co. KG
エグゼクティブマネジング・ディレクター

■ 著名な欧州法人や当社の海外子会社において管理・人事部門および効率向上プロジェクトを率いた経験から当社経営体制強化に貢献

Jim C. Beasley

元C.R. Bard Inc.
グループ・プレジデント

■ 医療機器業界における世界的なリーディング企業の1つであるC.R. Bard社における経営者としての豊富な経験から当社経営体制強化に貢献

グローバルな知見、経験を有する3名の新しい取締役候補者

19 2019/2/8 No data copy / No data transfer permitted

*現Becton, Dickinson and Company社

OLYMPUS

- 1月11日の「Transform Olympus 説明会」では、3名の新取締役候補者の選任を検討していることを公表
- その一人であるD. Robert Hale氏につきましては、先日ご紹介差し上げた通り
- 本日新たに2名の取締役候補者を決定
- 一人は、当社執行役員兼Olympus Europa SE & Co. KG エグゼクティブマネジメント・ディレクターを務めております、Stefan Kaufmann氏
- Kaufumann氏は、著名な欧州法人や当社の海外子会社において管理・人事部門および効率向上プロジェクトを率いた経験を有する
- そのグローバルかつ多角的なビジネスおよびコーポレート部門の経験及び識見を通じて、当社のビジネスインフラと人事マネジメントのグローバル統一化を図り、真のグローバル・メドテックカンパニーとなるために経営体制を強化していくことに貢献するものと判断
- もう一人は元C.R. Bard Inc.　グループ・プレジデント　Jim C.Beasley氏
- Beasley氏は、医療機器業界における世界的なリーディング企業の1つであるC.R. Bardグループにおける経営者としての豊富な経験及び識見により、国籍及び経験の点で当社の取締役会に多様性をもたらせ、当社の経営体制を強化していくことに貢献いただけると判断
- なお、この候補者３名につきましては、2019年6月開催予定の定時株主総会において、株主の皆様にお諮りする予定

OLYMPUS

Appendix

No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】中国生産子会社操業停止に伴う影響

（単位：億円）

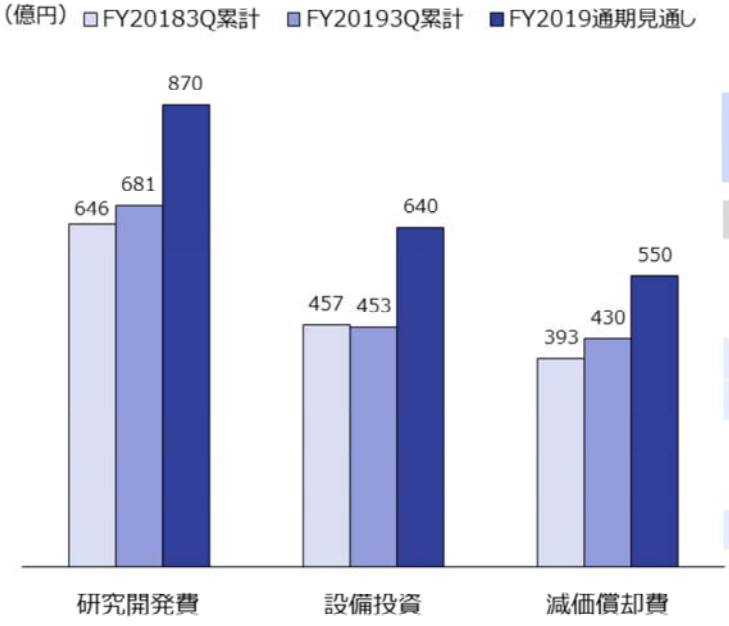
第3四半期累計実績

	映像	科学	全社消去	合計	備考
粗利減	▲24			▲24	売上減少に伴う粗利減
販売管理費	▲9			▲9	ベトナム生産子会社への移管費用
その他の費用	▲53	▲2	▲5	▲60	経済補償金等
合計	▲86	▲2	▲5	▲93	

No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】投資等（研究開発費、設備投資、減価償却費）

第3四半期累計実績および通期見通し



研究開発費詳細

（単位：億円）	FY2018(*1)	FY2019	
	3Q累計	3Q累計	通期見通し
研究開発費 （対売上高比率）	646 *(11.3%)*	681 *(11.7%)*	870 *(11.0%)*

ご参考

（単位：億円）	FY2018	FY2019	
	3Q累計	3Q累計	通期見通し
開発費資産化(＊2)	77	67	100
償却費	46	54	
	2018年6月末	2018年9月末	2018年12月末
開発資産残高	332	338	337

（＊1）研究開発費の集計方法変更に伴う影響を除いた金額。
なお、集計方法変更に伴う影響を含めた金額は、692億円です
（＊2）開発費資産化の数値は上段の研究開発費に含まれています

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

【参考資料】2019年3月期　第3四半期実績　セグメント別その他の損益

（単位：億円）

			FY2018				FY2019		
			1Q	2Q	3Q	年間	1Q	2Q	3Q
医療	売上高		1,344	1,548	1,580	6,163	1,439	1,617	1,588
	営業利益		232	322	324	1,218	274	273	318
		その他の損益	▲8	▲7	▲7	▲17	10	▲78	0
科学	売上高		200	246	254	1,000	211	262	259
	営業利益		▲6	18	23	64	▲4	32	22
		その他の損益	▲0	▲2	▲2	▲5	▲1	▲1	0
映像	売上高		151	154	167	603	139	118	127
	営業利益		9	7	▲1	▲12	▲58	▲34	▲39
		その他の損益	▲0	0	0	▲13	▲49	▲4	▲15
その他	売上高		23	27	25	99	17	16	18
	営業利益		▲5	▲7	▲16	▲50	▲7	▲7	▲9
		その他の損益	1	1	▲4	▲6	1	0	0
全社・消去	売上高		0	0	0	0	0	0	0
	営業利益		▲103	▲93	▲105	▲410	▲322	▲117	▲116
		その他の損益	3	6	▲7	13	▲210	▲4	▲4
連結合計	売上高		1,718	1,976	2,026	7,865	1,806	2,013	1,992
	営業利益		127	247	224	810	▲116	146	176
		その他の損益	▲5	▲1	▲21	▲28	▲250	▲87	▲19

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS